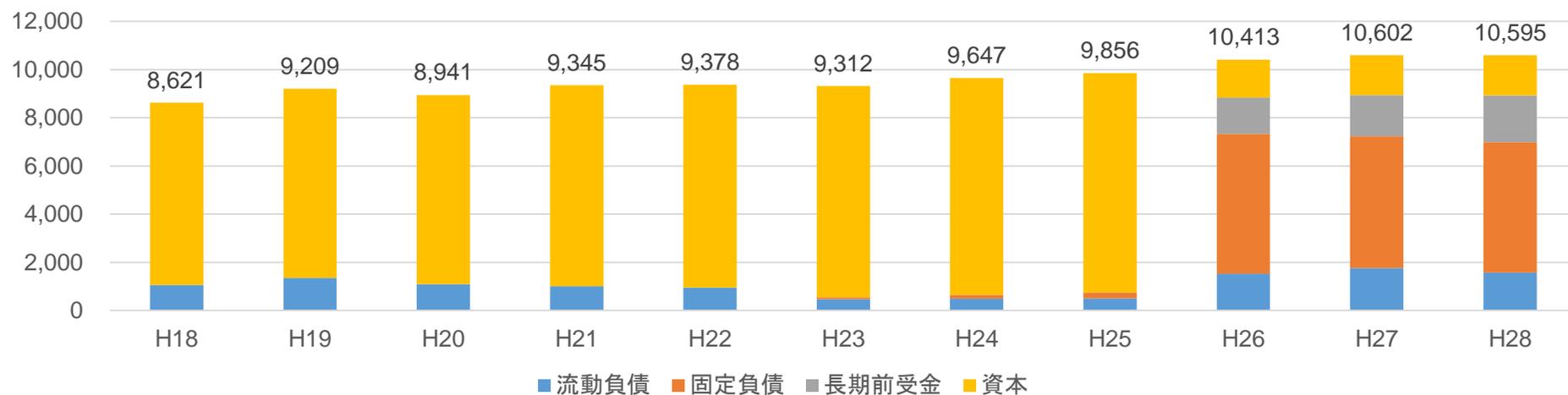
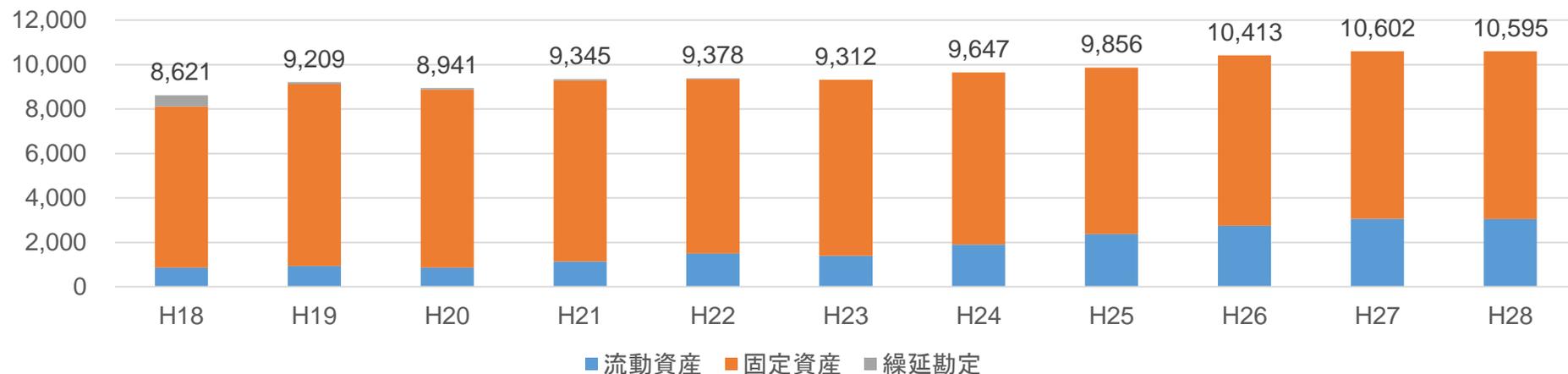


【参考】 財務状況の概観

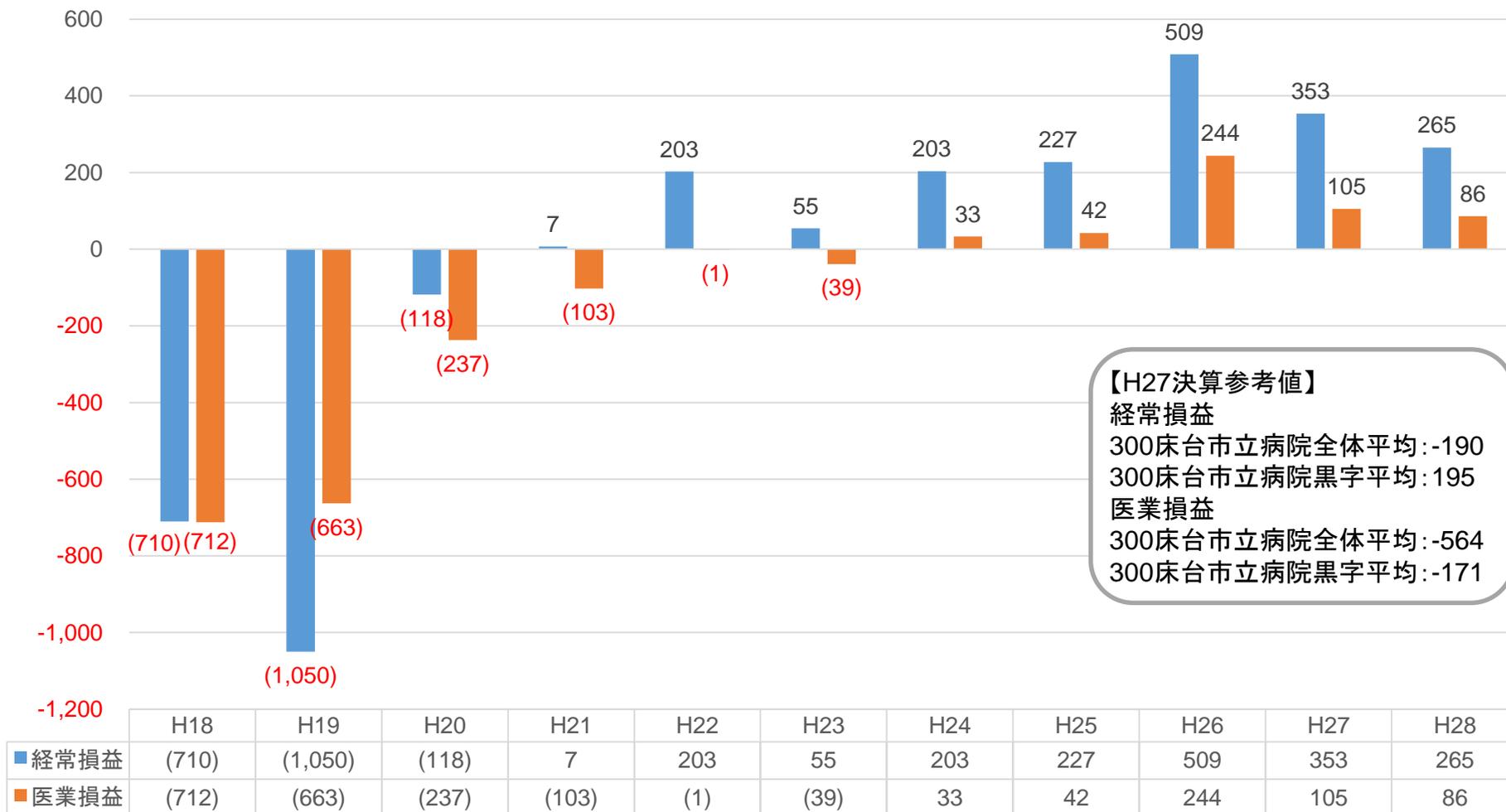
事業規模(資産総額)は年々大きくなっている。資産のうち流動資産が増加傾向にあり、また負債は企業債の償還に伴い減少傾向にある。

資産・負債・資本の経年推移(百万円)



H21以降経常黒字に転換、H26に最高益となり、以降経常利益は減少傾向にある。

業績の経年推移(百万円)

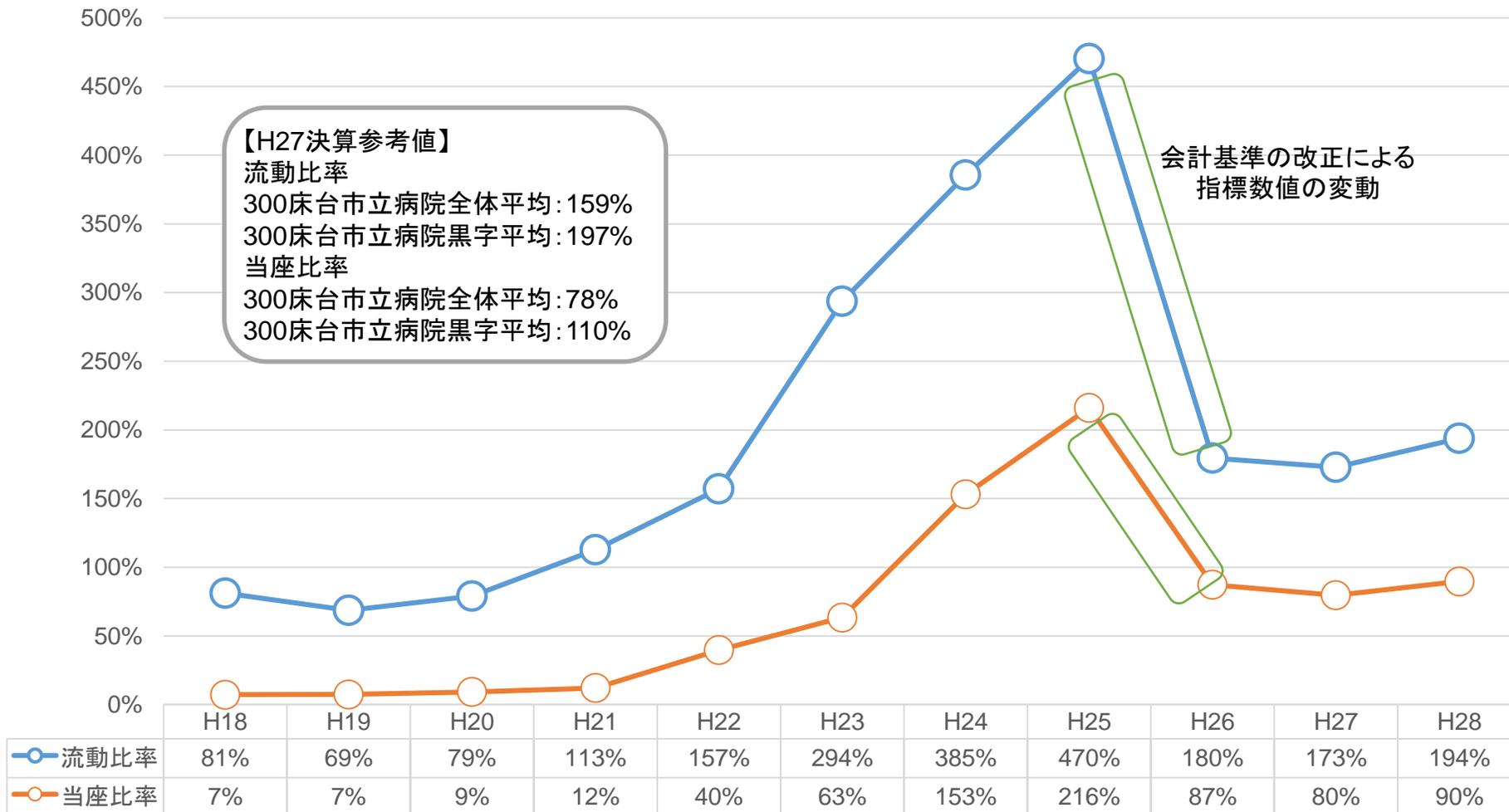


医業損益・経常損益:病院事業の1年間の経営成績の結果を示している。黒字の場合、金額はプラスとなる

財務安全性に関する指標の推移

手元の資金余力を示す安全性指標は平成22年以降いずれも上昇傾向にある。

財務安全性指標の経年推移(%)



流動比率: 短期的な財務安全性を示す指標。一般的には200%が目安となり、高ければ安全性が高い

当座比率: 短期的な財務安全性を示す指標のうち、手元の現金預金の保有割合からみた安全性の指標。一般的には100%が目安となり、高ければ安全性が高い

業績の改善に伴い現金預金残高は増加している。また、H26以降年々償却前経常損益が減少傾向となるなか、現金預金残高はほぼ同額で推移している。

現金預金・償却前経常損益の推移(百万円) ※

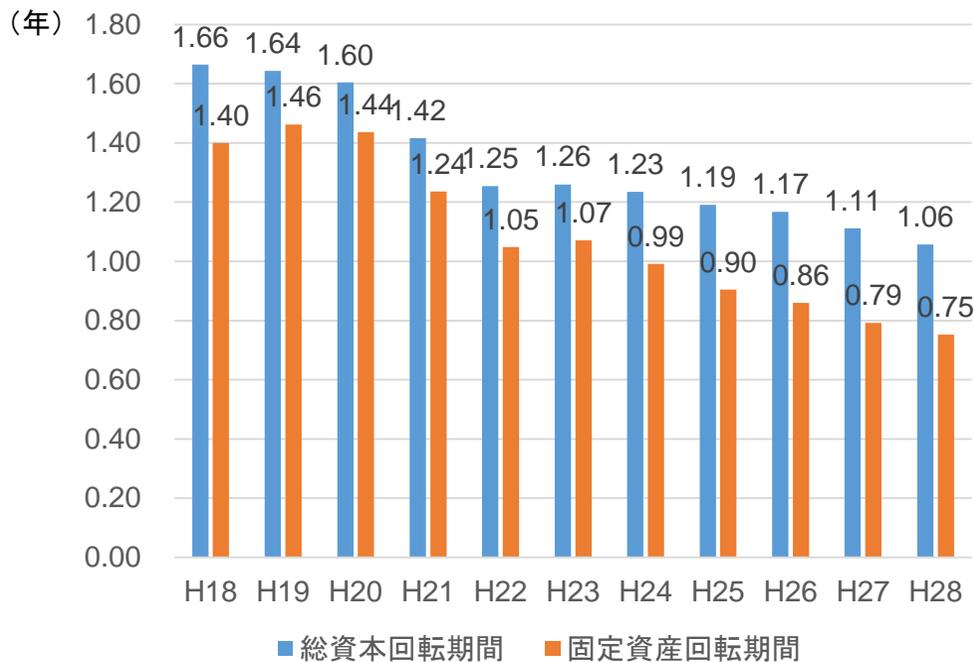


※ 償却前経常損益・・・簡易的に医業費用に含まれる減価償却費を経常損益に加算し算出している

効率性に関する指標の推移

年々資産効率性が改善を続けており、流動性の高い売上債権・貯蔵品の回転期間は良好に推移している。

効率性に関する指標の経年推移



【H27決算参考値】

総資本回転期間

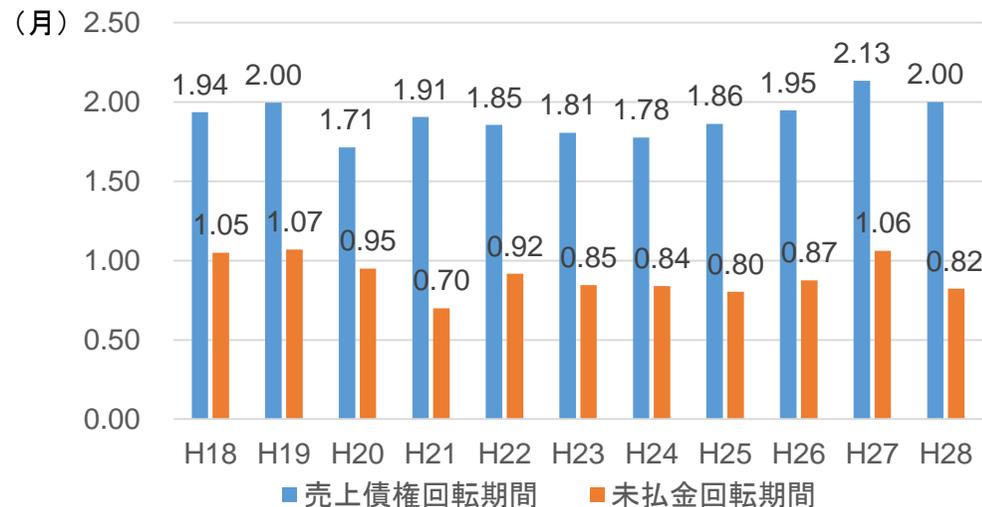
300床台市立病院全体平均: 1.64

300床台市立病院黒字平均: 1.62

固定資産回転期間

300床台市立病院全体平均: 1.28

300床台市立病院黒字平均: 1.18

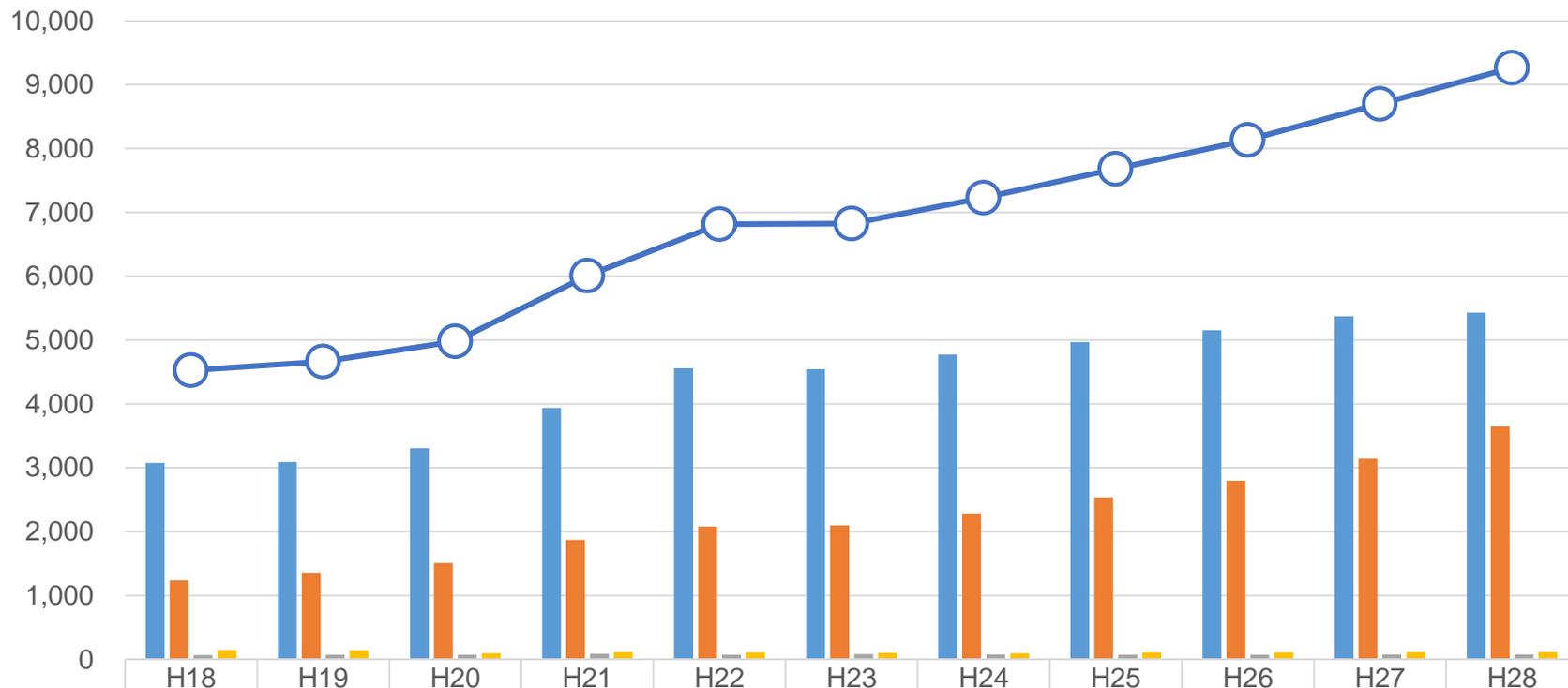


回転期間分析: 病院事業の収益でどのくらいの期間で資産・負債を1回転したかを示す指標。生み出される収益が多ければ、当該期間は短くなり、効率性が高くなる

収益性に関する指標の推移

年々医業収益は増加する傾向にあり、直近H28年度においては90億円を超過した

医業収益の推移(百万円)

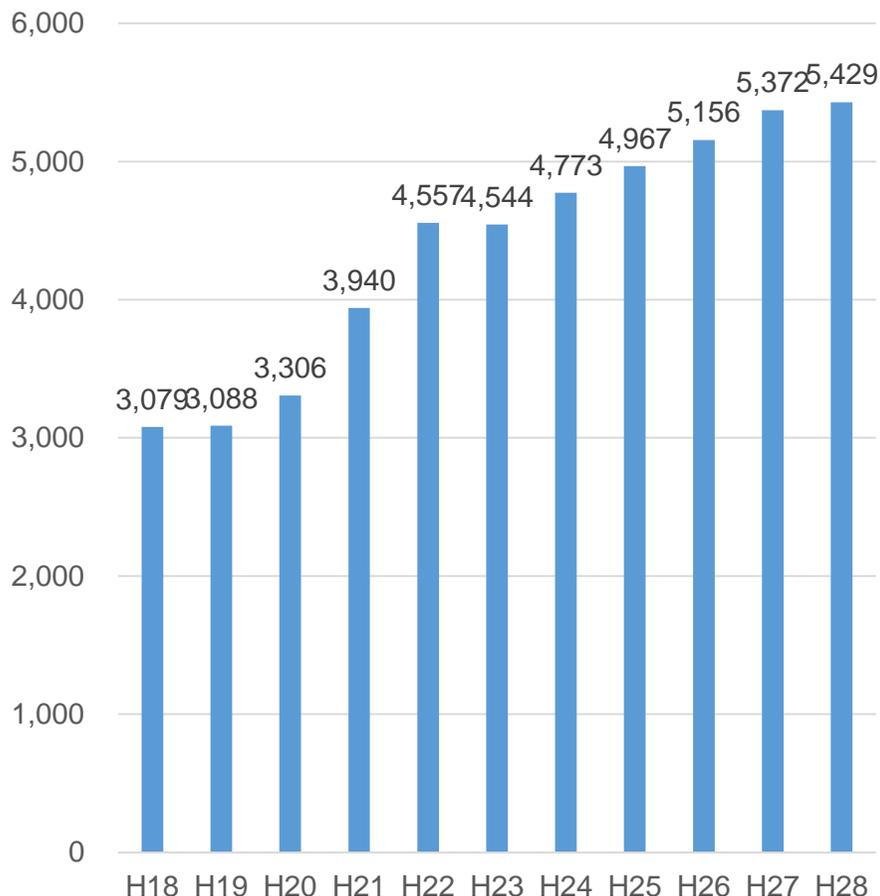


	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
■ 入院収益	3,079	3,088	3,306	3,940	4,557	4,544	4,773	4,967	5,156	5,372	5,429
■ 外来収益	1,235	1,356	1,506	1,870	2,079	2,100	2,284	2,537	2,797	3,139	3,649
■ 補助金・負担金	69	74	73	85	74	80	76	71	70	75	76
■ その他医業収益	145	144	93	115	107	98	95	108	110	112	113
○ 医業収益	4,527	4,662	4,978	6,009	6,816	6,822	7,229	7,683	8,133	8,698	9,266

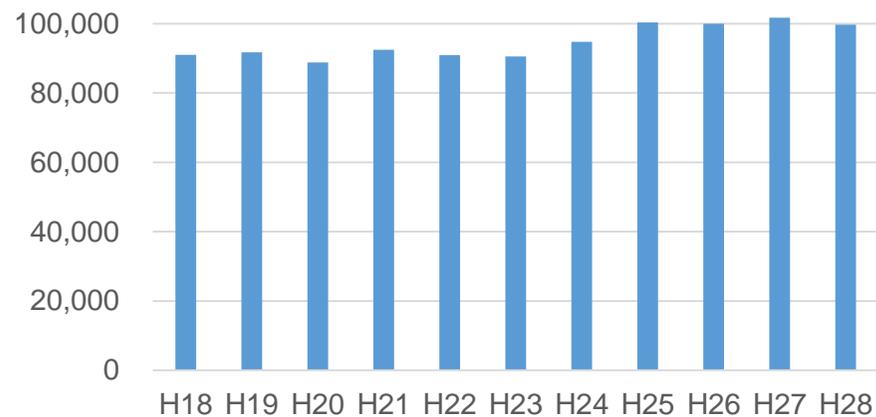
平成22年以降入院単価の上昇施策や入院患者数の増加により、入院収益が増加した。

入院診療実績の推移

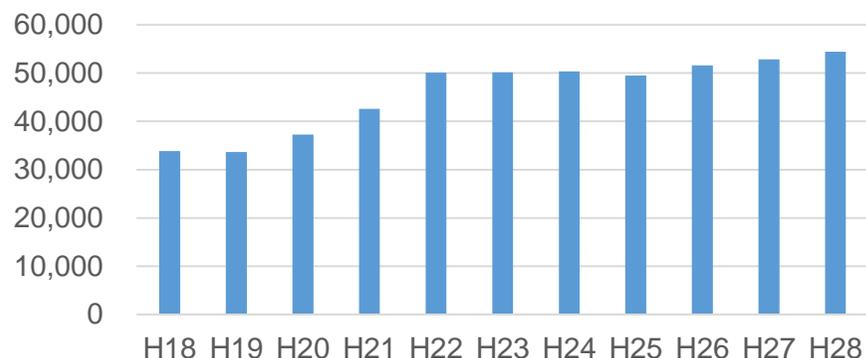
入院収益(百万円)



延入院患者数(人)



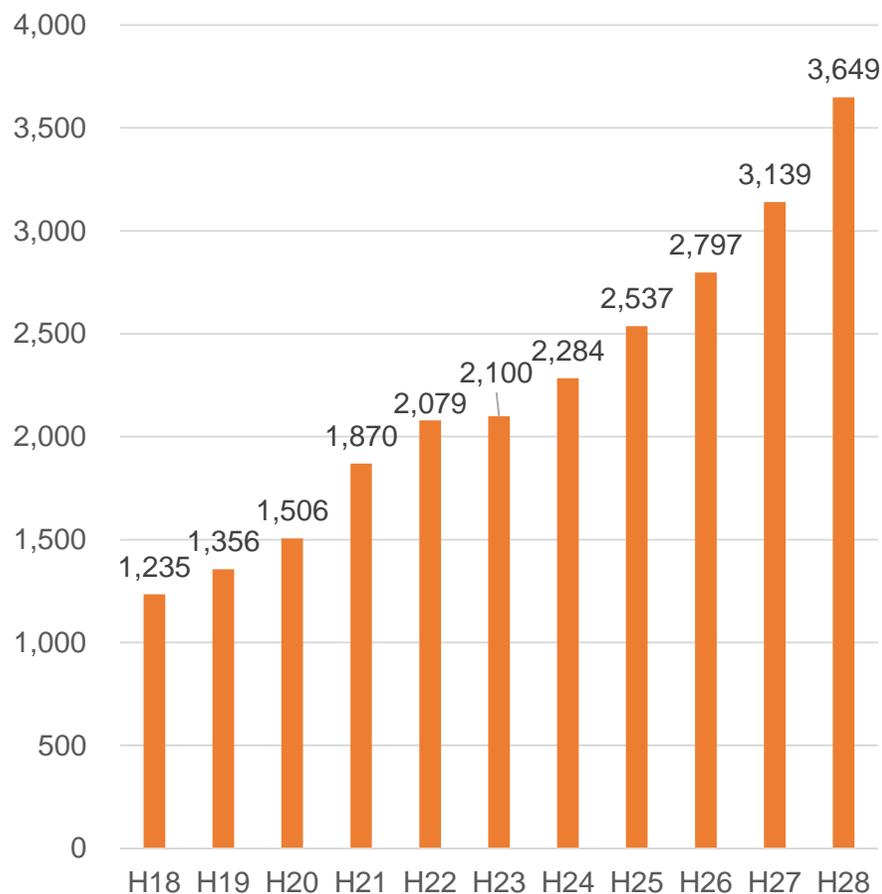
入院単価(円/人)



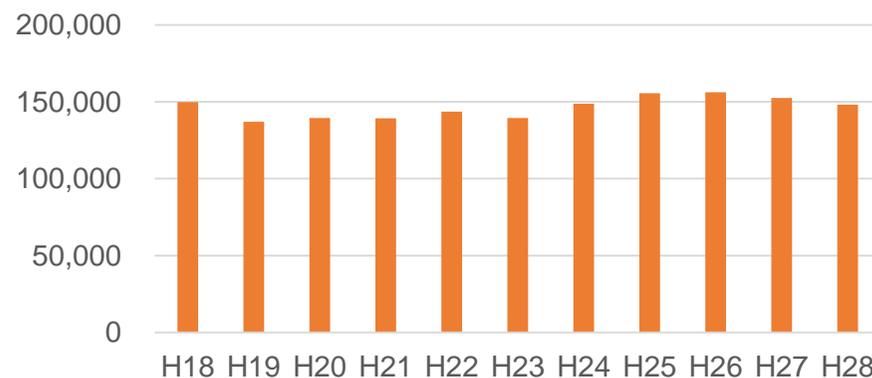
年々外来単価の上昇によって外来収益が増加傾向にあるなか、H26以降外来患者数は減少傾向にある

外来診療実績の推移

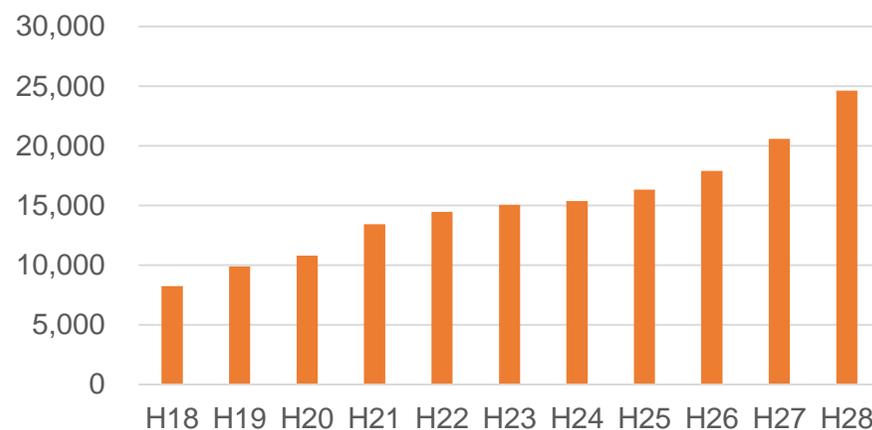
外来収益(百万円)



延外来患者数(人)



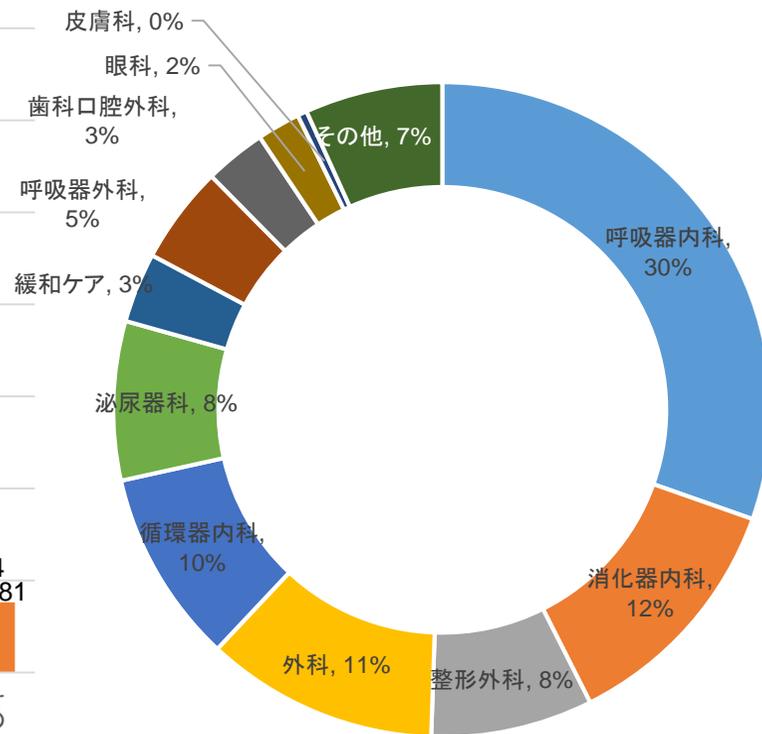
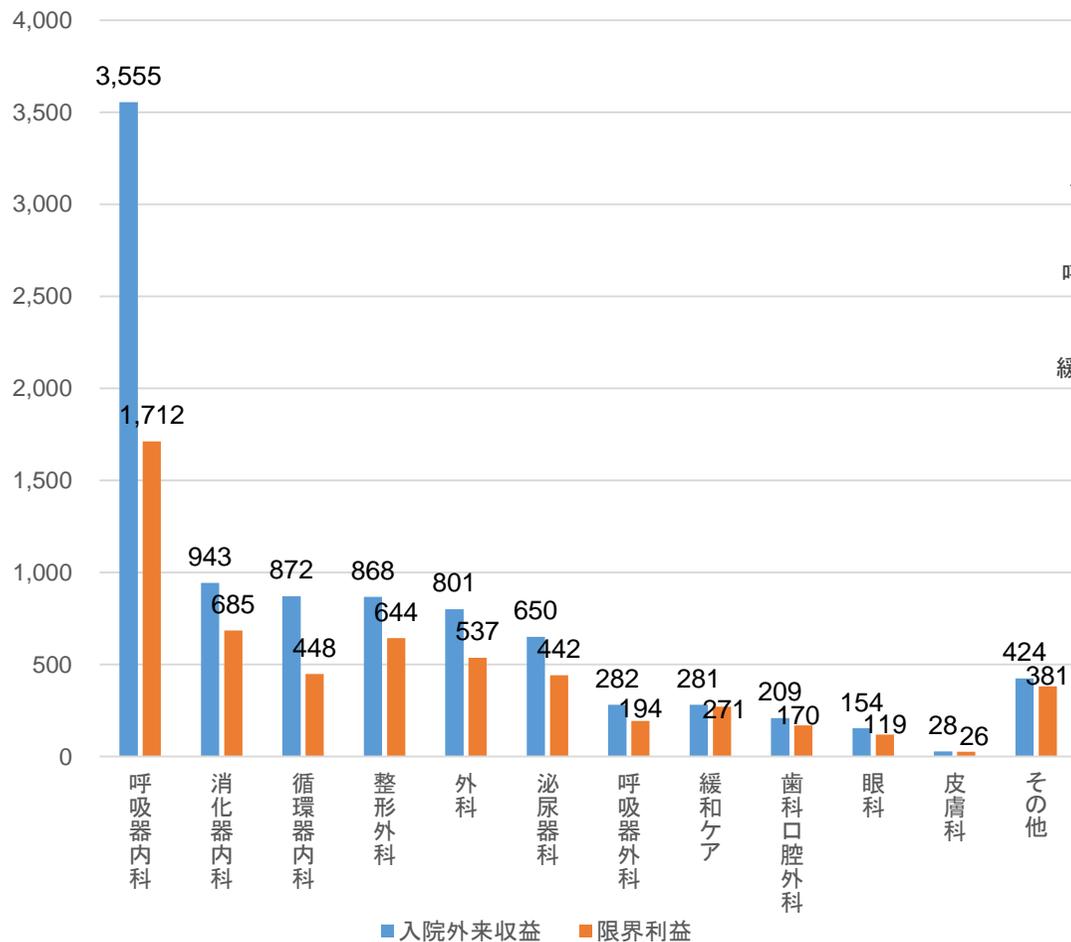
外来単価(円/人)



呼吸器内科が病院全体の限界利益の30%を占めており、経営を支える重要な診療科として位置付けられている。

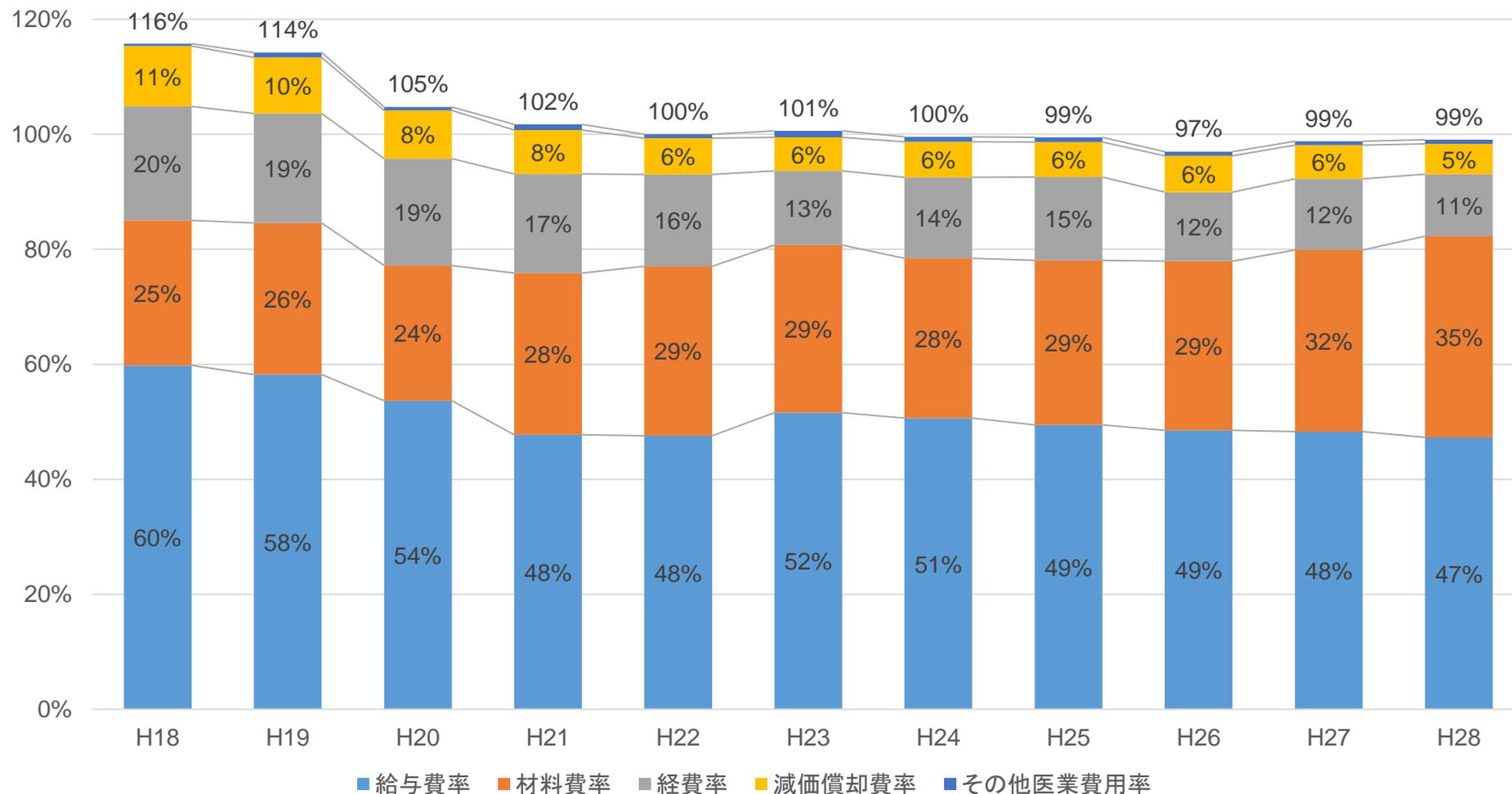
H28 診療科別限界利益(百万円)

H28 限界利益の診療科別シェア



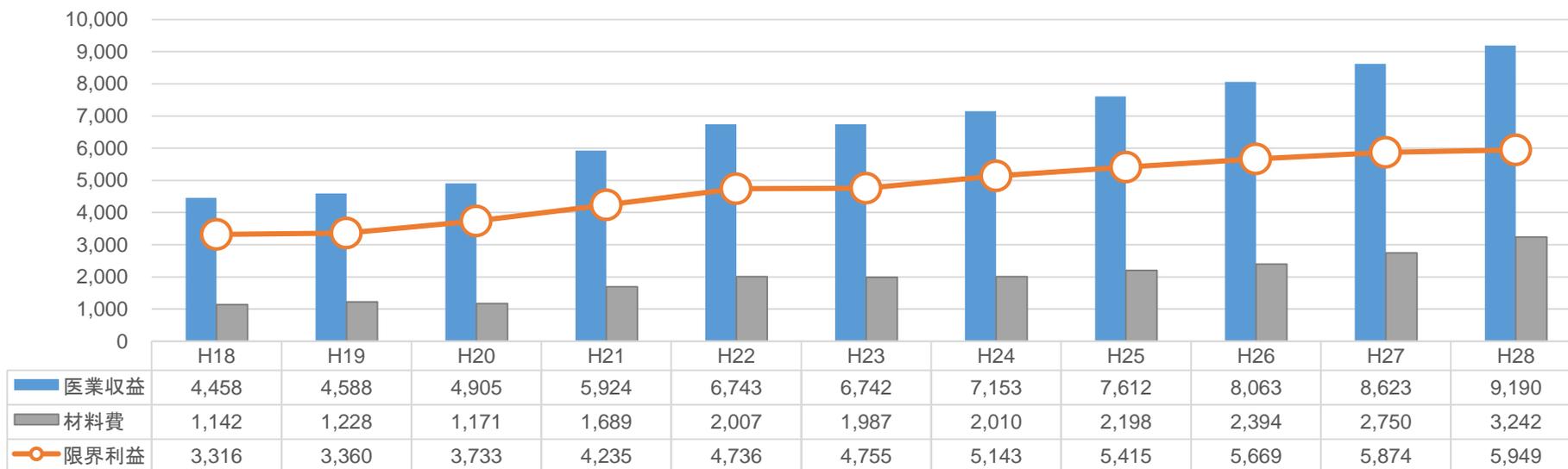
H25以降材料費率は上昇傾向にあり、給与費率は50%を下回る水準で推移している。

対医業収益医業費用の経年推移(%)

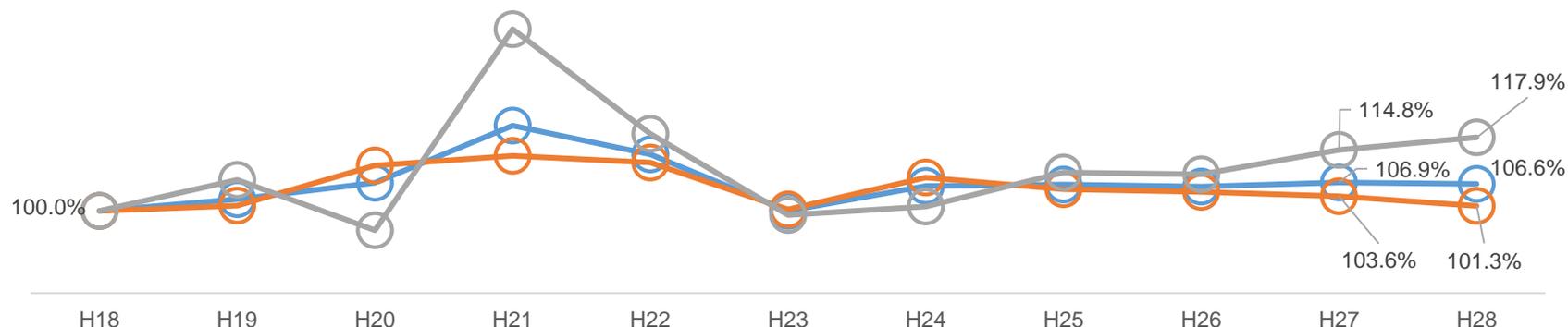


増収を続けるなか、H26以降、特に材料費が限界利益以上に増加傾向にある。

限界利益・材料費・医業収益の推移(百万円)



限界利益等の対前年伸び率

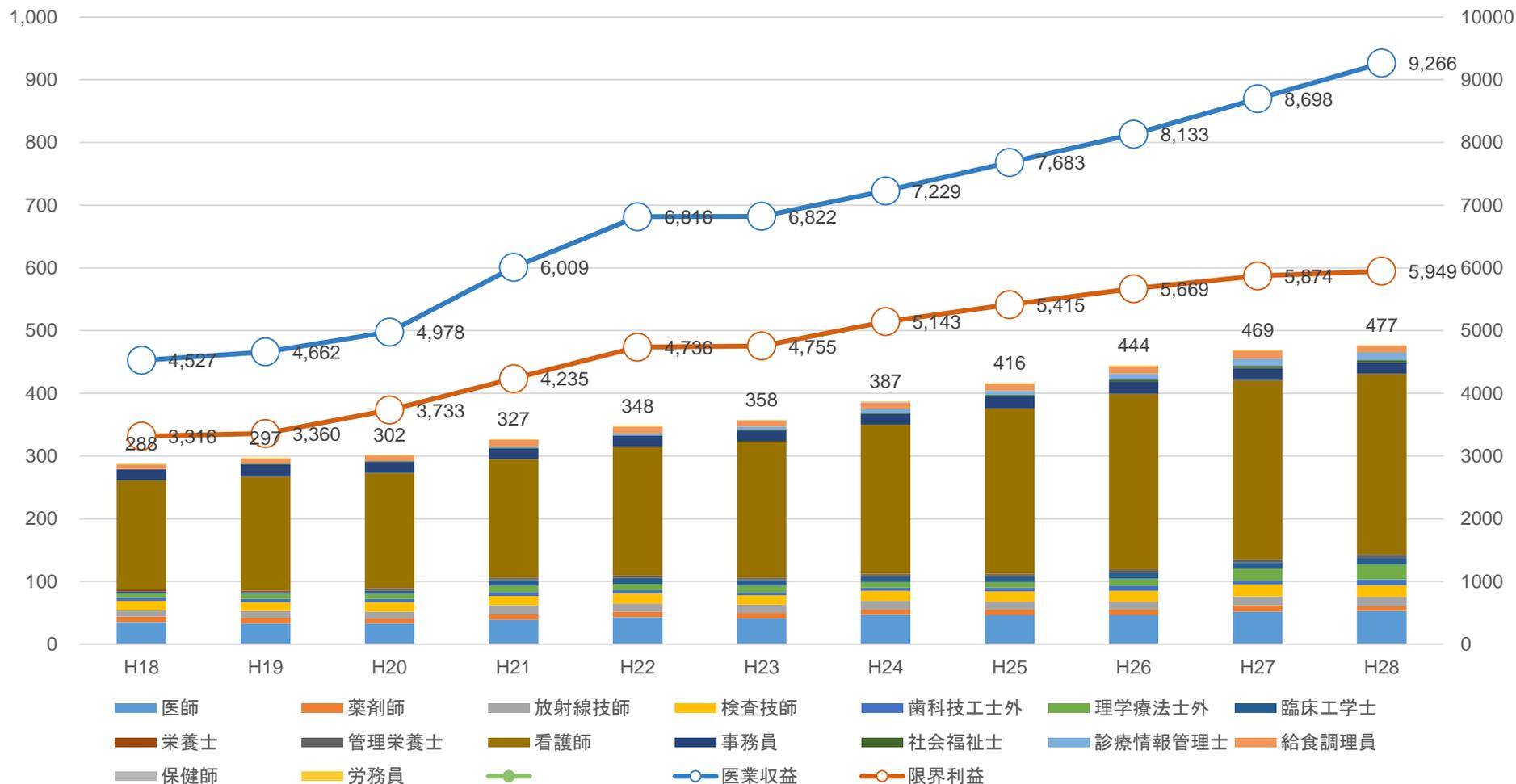


限界利益: 医業収益(負担金等除く) - 材料費で算定されるいわゆる粗利に相当する金額

生産性に関する指標の推移

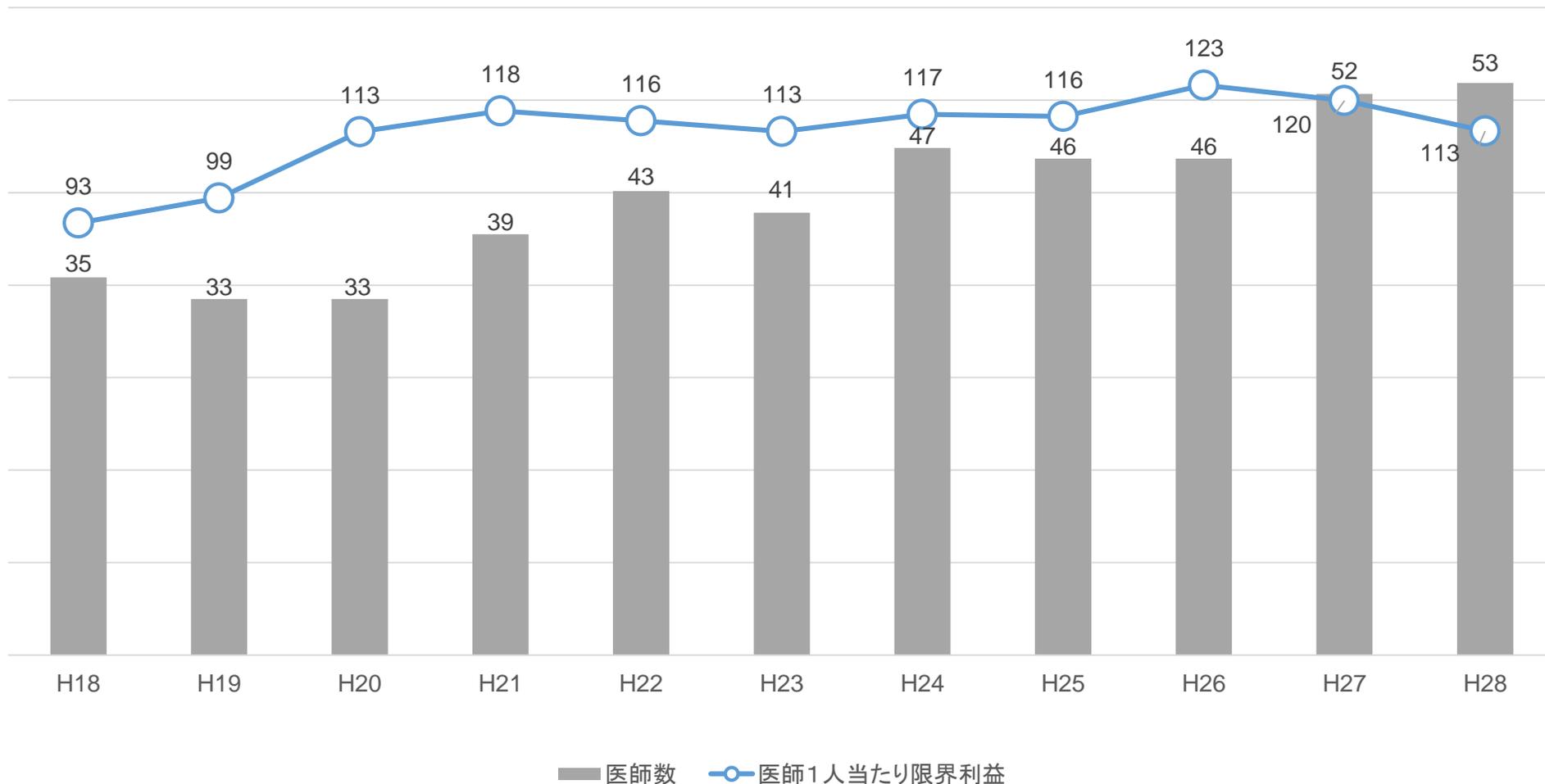
職員数は増加を続けて、医業収益は増加傾向にある。限界利益はH26以降を見る限り、わずかな増加になっている。

職員数および医業収益、限界利益(人、百万円)



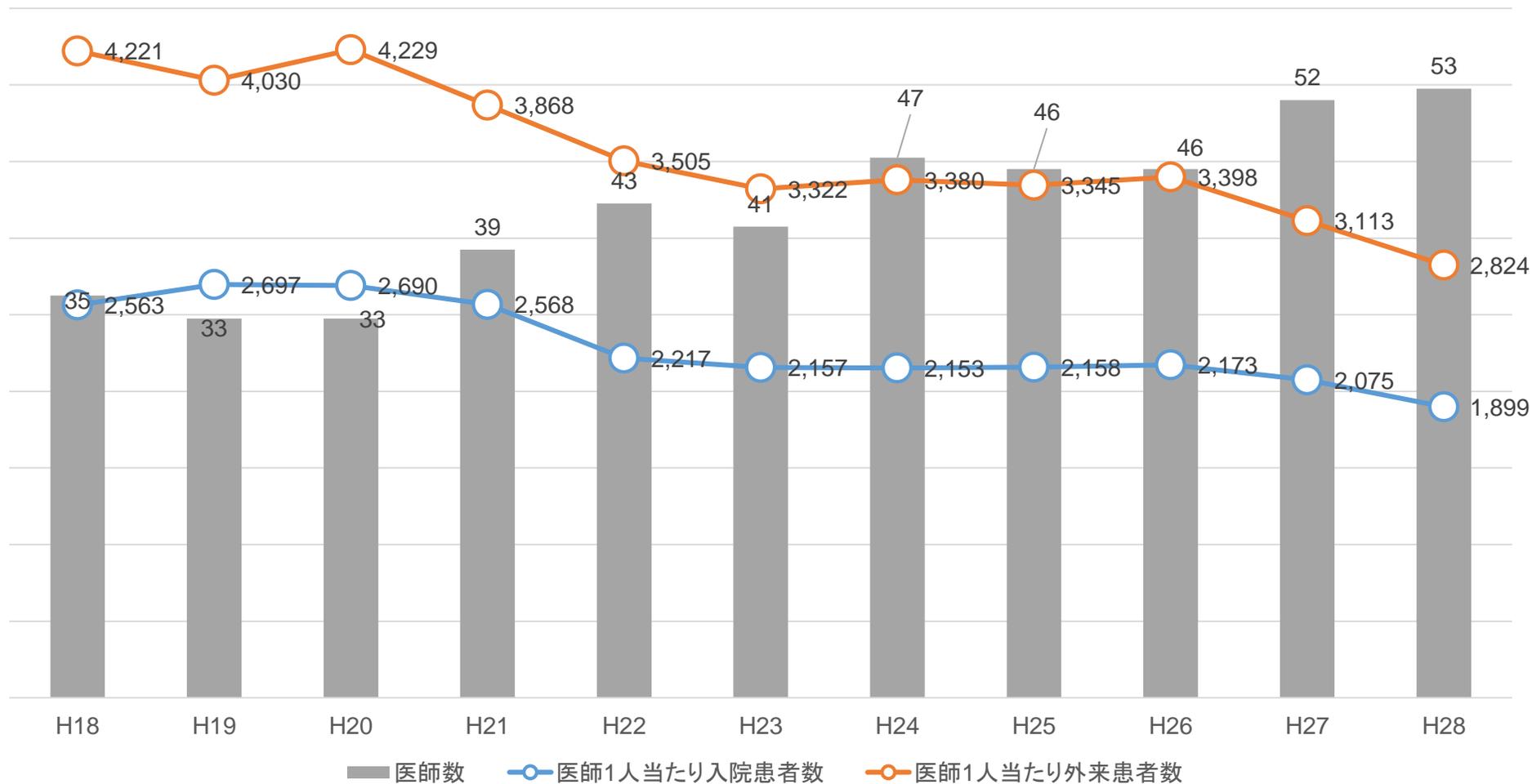
医師数は増加傾向にあり、H26以降医師1人あたり限界利益は減少傾向にある。

医師の生産性(限界利益)に関する指標の推移(百万円、人)



医師数は年々増加しており、医師1人当たり患者数は減少傾向にある。

医師の生産性(患者数)に関する指標の推移(人)



看護師数は年々増加しており、1人当たり患者数は減少傾向にある。

看護師の生産性に関する指標の推移(人)

